

「身じまい」のおと



滝野隆浩

社会部編集委員

◎若林健次

このコラムは「フェイスブック運動」なので、紙面に掲載される前後に、私はあれやこれやネットに書き込みをしている。それに対する投稿を読みながら気づいたことは、30代40代、私より若い世代の人たちも、意外に墓や改葬の悩みを持っているということだ。「親が相談もなく買ってしまっ」とか、「子供がいらないから散骨しかないなあ……」など。

悩みましょう！ みんなで知恵を出し合って。事情は各自違っても、聖徳大学の長江曜子教授が言うように「改葬は人生最後の宿題」なのだから。

ただ、お金の話は、さすがに60代以降にならないと、ぴんとこないだろう。先日、私が愛読する読売新聞の「人生案内」欄に入次々と寄付を求めのお寺という相談が載っていた。お堀や倉庫の修理代として寺が振込用紙を送りつけて求めてくるとか。年金暮らしの夫婦はこれまでに100万円払ったらしい。振込用紙とはひどい。改葬に關しても、檀家を離れる「離檀料」名目で数百万円を請求された、というウワサを私も聞いた。一部の不届きな僧侶のせいで、お寺全体が不信任を持たれていることは嘆かわしい。

葬儀にしてもお墓にしても、人の「死」という究極の悲しみ

改葬費用もさまざま 見積もりを

に際して、人智を超えた宗教性が必要な場面があると、私は思う。その際、施設の運営費や人件費がかかることもわかる。ただ、それにしても、「どんぶり勘定」はまずい。何にどのくらいかかったと明示されていない。私たちは多様なメニューの中で「選択」するという生き方をするようになった。墓も、「そう決まっている」と押しつけられるのでなく、自分で決めたいのだ。

前回は紹介した全国石製品協同組合のホームページにある、「お墓の引越しガイド」には、改葬費用の例が載っている。たとえば、いまある墓石を、新しい墓地に移動する「引越し」パターンだところだ。

- ▽墓の撤去 112万3500円
- ▽石碑運搬費 12万6000円
- ▽永代使用料 66万6000円
- ▽新造工事費 99万2250円
- ▽その他 45万7800円

計252万5550円という。10円単位まで出ているからいい。高いと見るか、こんなものかと感じるかは、その人しだいである。もちろん、改葬にはほかに、墓石を新規に建立するタイプや骨つぼの一部を移すタイプなどさまざまあって、かかる費用は違ってくる。

お寺に相談して石材店を探し、撤去の見積もりを取る。少々高くても、手続きとか引越し先のことまですべてやってくれるかもしれない。「とにかく時間をかけて、みんなで話し合ったほうがいい」と長江先生はいう。そうか、だから、30代や40代でいろいろ心配し始めるのはいいことなのかもしれない。少子化や非婚化の真ただちの世代にとって、お墓の問題は想像以上に深刻なのだろう。